

393
707

勤儉獎勵講演資料第一
我國財政經濟の現状
附復興貯蓄債巻の賣出に就て



始



393
707

大正十三年九月

勤儉獎勵講演資料

第一輯

(大藏省理財局)

我國財政經濟の現狀

附復興貯蓄債券の賣出に就て

「本稿は勤儉獎勵に關する講演の資料の一部に供する爲起案したるものにして、
今後必要に應じて資料を蒐集する見込なり」

(活字を以て謄寫に代ふ)

我國の財政經濟上の現状 附復興貯蓄債券の賣出に就て

一、凡そ國力の強弱を計る標準と致しましては、其の國の面積とか人口とか兵力とか經濟力とか云ふ色々の要素が列擧されるのでありまして、我國でも古來富國強兵と云ふ詞が能く使用されて來てあります。而して此の富國と強兵の内、何れがより多く重きを置かれたかと云ふに、代に依つて異なるのでありまして、近來迄は我國民の大多數の頭には、兵力即國力と云ふ當根強く植付られて居た様に思はれるのであります。之は我國の地位の國際間に重きに至つた直接の動機が日清日露の兩戰役に在つた沿革に鑑みまして、無からぬ現象である許でなく、列國の間に軍備擴張熱の旺盛を極めた當時に於て、不知不識の間に兵力即國力と云ふ觀念の養成されたことは、寧ろ必然の成行と思ふのであります。然るに最近に交り此の思潮は一天變動を生じたのであります。蓋し歐洲戰爭なる實地教訓は眞の丘大云ふも内軍隊や軍艦の數で定まるものでなく、經濟力の背景を持つ兵力でなければ結局の勝利を収め難いと云ふことを證明したのであります。一敗地に塗れたる獨逸人は戰爭に敗けたのでなく、其の經濟力に壓

これは
是か相
大なり
13.
内交

倒されたのであると云ふて居りますが、一片の敗け惜みではなく確に一面の真相を傳ふる言と思ふのであります。況や戦後に於ては色々の機會と色々の形式を以て平和思想が擡頭しつゝ、あるのでありまして、先年の華府會議の如きも其の最も顯著なる例であります。斯の如き時代に於て國運の伸暢を圖るには、先以て國民經濟力の充實發展に意を用ゆるの緊要なるは言を俟たないのであります。即ち今後は國際間に於て劇烈なる經濟戰の行はるゝことは、今から覺悟せねばならぬ所であると同時に、軍備問題に致しましても其主力を科學の力と機械力の應用に集中して、益經濟力の背景を必要とする時期に進みつゝ、あることは明であります。然らば此の世界の經濟戰を前にして我國は果して如何なる地位を占めて居るか、之は一般國民の最も冷靜に考へねばならぬ大切の問題であります。

二、私の觀る所に依れば國民の大多數は此點に於て非常に自負して居り自分の力を買被つて居るのでありまして、實に危險なること、考ふる次第であります。成る程歐洲戰爭に當りましては我國の經濟界は未曾有の活躍を致しました。其結果戰前の債務國一變して債權國となつたと云ふ様な詞が廣く行はれたのみならず、外國に於きましても日本は戰爭の混雜に乗じて非常にうまいこと

をしたと云ふ様な批評を屢々耳にしたのであります。これが今日の國民の自負心の原因を爲して居ること、思ひます。然らば此の所謂戰爭中の儲けとは何を指すか其額は幾何であるかと云ふに其の數字は所謂國際貸借と云ふものに現はれるのでありまして、貿易上の輸出超過と貿易外の受取超過の二者に外ならぬのであります。貿易上に於ては我國は多年輸入超過の國でありましたけれども一度歐洲戰爭が開始致しますと、同盟諸國に對する軍需品の輸出や東洋南洋其他の諸地方に對する商品の輸出が激増した爲め、大正四年から大正七年迄の輸出超過の累計は朝鮮臺灣の分を合せ約十四億圓に上つたのであります。又貿易外の收支に於きましても、當時海運界を始め一般事業界の好況につれ、船會社其他海外事業會社等の収益が莫大の額に上りましたから、毎年巨額の受取超過を現出致しまして、大正四年から七年迄の累計は丁度右貿易の出超と略同額に達したのであります。此の貿易上並に貿易外に於て儲けた金は、毎年の外債の元利拂其他に充當し、或は英佛露諸國政府に對する貸付に使用されたのでありますか、それでも尙餘つた額は政府及日本銀行の所有する正貨即ち金の増加となつて現はれまして、大正三年末に三億四千百餘萬圓でありました正貨は、大正七年末には十五億八千七百萬圓となり、更に大正十二年一月には二十一億

九千餘萬圓に上りました。

而して此の正貨増加の直接の影響と致しまして、日本銀行の兌換券は膨脹し、金廻りはよくなり、物價はどん／＼騰貴し、總ての事業總ての商賣は好景氣の絶頂に達し、會社によつては幾十割もの配當をなし、所謂成金なるものが簇出し、勞働階級の収入も遽に増加しまして、國民を擧げて有頂天になりました。之が爲め、質實剛健の氣風は地を拂ひ、世は滔々として奢侈安逸に陥つたのであります。

三、然るに、有爲轉變の世の常と致しまして、此の榮華は今や權花一朝の夢と消え失せました。歐洲戰爭が終了すると同時に、所謂反動の時代が参りました。そしてそれは先以て、外國貿易に顯れたのであります。蓋し戰爭が濟むと、軍需品の輸出の止るのは勿論のこと、歐米の交戰諸國は往時の地盤を恢復せんとして、どし／＼東洋や南洋や南米の市場に猛進して参りまして、我國の商品は漸次其の爲めに驅逐され、輸出貿易は茲に一大頓挫を招くこと、なりました。其結果我國の貿易は、大正八年から復又入超に逆轉したのであります。此の貿易の趨勢は、直ちに内地の事業界金融界に影響を及ぼしまして、茲に大正九年春の大恐慌が突發し、經濟界の大波瀾を生じたこと（その記）

は、世人の記憶に新なる所と思ひます。凡そ歐洲戰爭の時の様に、異常なる好景氣が続いた後は、斯の如き反動は早晚免れない現象でありまして、大正九年にも獨り我國のみの出來事ではなかつたのであります。只問題は、斯の如き事件の後に處する國民の態度と覺悟如何に在るのであります。英米の諸國に於きましては、夙に此の時代の推移に覺醒し、財界の整理を斷行し、陣容を一新して戦後の經營に當つたのであります。其結果物價にせよ、金利にせよ、産業にせよ、貿易にせよ、極めて順調に改善進歩の跡を示して居るのであります。然るに我國に於きましては残念ながら此の反動期に處するの途を誤つたのであります。事業界の整理と云ふものは九年の恐慌後四ヶ年有餘を経過致しました今日に於て尙完からず、財界は之が爲め今以て不安の域を脱しないのであります。其結果産業は萎微し、貿易は振はず、大正八年から十一年迄の四ヶ年の入超額累計は、十四億四千四百萬圓に上りまして、丁度戦時四ヶ年の出超累計額と相殺して餘す所なきに至つたのであります。之が爲め内地は金融益梗塞し、不景氣氣分が濃厚となり、財界立て直しの急務なるを感じて居るに當りまして突如として昨年秋の大震災に遭遇したのであります。

四、此震災は獨り我國に於て未曾有の災害である許りでなく、世界の歴史に於きましても其例に乏

しい事變であります。巨萬の生靈を失ひ、巨億の富を灰燼に歸し、生産交通金融の諸機關を破壊し、我財政經濟の全般に及ぼしたる影響は、極めて深甚なるものがありました。即ち内に於きましては、政府並に關係地方團體の財政の負擔頓に重きを致しまして、既に決定したる政府の帝都復興關係の經費總額は五億七千三百餘萬圓、震災復興に關する經費の總額は七億五百九十餘萬圓合計十二億七千九百萬圓に上り、尙其外東京、及横濱兩市の負擔する復興費の額、亦相當巨額に上るのであります。それに民間に於きましては、焼失したる住宅店舗等の再築其他の復興、極めて巨額の資金を要するものでありまして、是等は總て我經濟界の新負擔となるのであります。又外に於きましては、震災以來復興材料の輸入等の關係もありまして、貿易の逆調は益々甚しく、昨年の上半期に於ては、朝鮮臺灣の分を合せ、六億二千二百餘萬圓と云ふ我國未曾有の巨額に上り、本年の上半期に於ては、更に七億一千二百餘萬圓の入超を告げ、大正八年以降の入超累計は、實に二十七億七千餘萬圓に達したのであります。即ち貿易上に於きましては、戰時中儲けた分を夙に吐出した上に、今日では却て差引十四億圓許りの輸入超過となつた計算であります。先程申上げました貿易外の收支勘定はどうであるかと云ひますと、之は今日でも依然受取超過ではありま

するが、御承知の通り海運界は極めて不況でありまして、戰事中は備船料一噸當り四十何圓も致したものが、昨今では僅に二圓位を出ないのでありますから、船舶會社の収益と云ふものは非常に減つて居ります。其他の對外的事業の景況も大同小異でありまして、従つて右の受取超過の額と云ふものは、大きな額に上ることとなり、到底前記の如き巨額の貿易の入超を相殺することが出来なかつたのであります。其結果我國の保有する正貨は、其最高記録たる大正十年一月の二十一億九千餘萬圓から次第に減少致しまして、本年七月末には十六億三千五百萬圓となつたのであります。

又戰爭中聯合國に貸した金の内、露國に對するものは別として、英佛兩國に對するものは殆ど全部償還濟となりました。加之本年春には、却て震災善後の爲め、英米兩國市場に於て新に五億五千萬圓の外債を募集するの餘儀なきに立ち到りました。又民間に於きましては、昨年頃からポツポツ外國で、借金をする者が現はれる様になりました。

右の如き貿易の狀勢に伴ひまして、外國爲替相場即我國の貨幣の對外價值は、次第に低落の趨勢を現はしまして、殊に昨年の震災以來其の傾向著しく、平常に於ての百圓に付き約五十弗である

べき對米の相場は、現に四十一弗半になつて居りまして、二割近くの低落を示して居るのであります。

八

此の外國爲替相場が低落する結果は、外國から買ふ物の代價は夫れだけ高くつきますし、外債の元利拂は夫れだけ負擔が増加しますし、其の他一國の對外使用の上に極めて不利な影響を與ふるのであります。彼の獨逸を初めとして、佛伊其他の諸國に於きまして、戦後の經濟問題中一番難問題とされ、爲政者の頭を悩し、又屢々國際會議の中心問題となつて居るのは、此の爲替の問題であります。我國に於きまして、今より十分注意を拂はなければならぬ點であると考へます。

五、前に申述べました通り、戰爭中我經濟力膨脹の表徴として、自他共に許したものは、貿易の出超と、之に伴ふ爲替の騰貴及正貨の累積に外ならなかつたのであります。つまり當時交戦國でありながら、貿易は出超、爲替は騰貴し、正貨は累積し、對外債務は減少し、對外債權は増加すると云ふ様な結構な現象を呈した國は米國と我國あるのみでありました。そこで我國の經濟力と云ふものは、遽に外國から注意されることとなり、時に羨望的となり、之と同時に我國人も米國と肩を並べる位な氣分になつたのであります。然し當時に於きまして、我國の經濟的發展と云

ふものは、米國のそれに比しますと段違ひであつた。例は我國の四ヶ年の貿易の出超額は、合計約十四億圓でありましたのに、米國の同一期間即一九一五年から一九一八年までの出超額は、二百二十五億餘圓に上り、其他正貨の高に致しましても、或は外國に對する貸付金の額に致しましても、同様でありまして、初から比較にはならなかつたのであります。況や今日に於きましては既に申上げた如く、我國の狀勢はすつかり一變して、貿易は入超となり、正貨は漸減し、對外債權はなくなり、對外債務は増加し、折角儲けたと思ふたのも束の間で、今は元の杳阿彌となつてしまつたのであります。然らば現在に於ける我國の經濟力と云ふものは、世界に於て果して如何なる地位を占めて居るのであるか。世界に誇るに足る特徴があるか。此點に就きましては、丁度今年の春外債募集に當りまして、英米の引受銀行團から質問がありました。即日本公債の發行目論見書の中へ、其の特徴を書き入れて、宣傳に使ふ必要があつたのです。此質問に對し、回答の材料を供給しなければならぬ。大藏省の派遣委員は、少なからず困つたと云ふことであります。成る程我國の人口は、強國として恥しからぬ數に上つて居る、軍備も有力なるものに違ひない、然し是等は、英國や米國で外債を募集する宣傳の材料としては、適當のものではありません。さ

九

りとして經濟統計の示す所に依ると鐵、石炭、石油と云ふ様な現代産業の基礎を成す物質の産額は極めて少量で、鉄鐵の生産高は英國の七十八分の一、米國の四百二十分の一に過ぎない。石炭は英國の十一分の一、米國の二十四分の一に過ぎない。石油は米國の二百七十五分の一に過ぎない。農業國と稱しながら農産物の産額は國民を養ふに足らず、年々巨額の食料品を輸入して居る。工業の原料に致しましても、棉花羊毛と云ふ様な主要なるものは、殆ど我國に産しないと云ふも不可ないのであります。又交通機關の中心である鐵道の如きも、一萬哩の祝賀會をやると云ふて騒いで居りますが、それでも尙英國の三分の一、米國の二十七分の一に過ぎないのであります。斯く調べて参りますと、我國の産業として特筆すべきものは、生絲、紡織、船舶の三者に歸着する様であります。我國の生絲は世界に於て獨特の地位を占めて居りまして、綿絲と共に輸出品の一方の大將であります。其の相場の變動の大きいことを想ひ、又人造絹絲の發達の將來を考へると、中々樂觀は出來ないのであります。紡績業は近年急に發達したのでありますが、今では綿絲綿布、生絲と共に輸出品の大宗たる地位を占めて居ります。然し其の錘数は尙英國の十四分の一、米國の九分の一に過ぎないのであります。殊に其原料は全部印度や米國から輸入せねばならぬ

のでありますから、是等の先進國に拮抗することは容易でないのであります。

次に海運業に就きましては、我國の有する船舶は三百六十五萬噸でありまして、英國の五分の一、米國の三分の一に過ぎないとは云へ、世界の第三位を占め、海國としての面目を發揮して居るのであります。然し之も船舶の素質から云ひますと、年齢の古いものや速力の遅い船が大部分を占めて居りまして、所謂優良船は極く少く、此點から觀ますと、我國の地位は遙に落ちるのであります。例へば今日我國から米國へ賣る生絲の大部分は、外國船で運搬すると云ふ状態であります。

六、斯の如き次第で、我國は所謂一等國に列して居ても、其經濟力に於ては、決して自負樂觀を許さないのであります。殊に英米の二大強國に對する比較上から觀ますと、まだく段違ひの評を免れないのであります。從て我々日本國民が、是等の諸國と對抗して、益我國威を發揚し、國運の進暢を圖るには、茲に一大覺醒と一大努力を要することが明となるのであります。然し今我國民の大多數は、果して此の我國の地位を自覺し、將來に對し一大決心を持つて居るでありませうか。私は近時の國民の風潮から察して、寔に心配に耐へないものがあるのであります。即戰時經濟界の好況時代に浸み込んだ民心の弛緩、奢侈安逸の風習は、財界が不況で、國民の所得が著

しく減少して居る今日に於ても、容易に改めることが出来ない様に見えるのであります。

昨年の震災に際しましては、如何なる富豪でも辛うじて玄米の握り飯に依て露命を繰ぐと云ふ状況でありまして、平素の贅澤が實際勿體なく感ぜられたと云ふことを異口同音に自白したのであります。是等の被害者の體驗は、全國に傳はりました、流石に當時は、人心の緊張大に見るべきものがありました。識者は此の國民の眞劍なる反省的態度を喜びまして、此の調子で進んだならば震災の復興も敢て至難でなく、之れ寧ろ災を轉じて福と爲すものであると謂ふたのであります。然るにそれから未だ一年も経たないのに、人心の趨向は再び變りまして、震災當時の緊張した気分は跡も形もなくなつた様に思はれるのであります。當時の國民的緊張が一時的であつたと云ふことは、返す／＼も遺憾に耐えないのであります、此の儘では到底總理大臣の嘗て云はれました國際競争場裡の勝利者となることはむづかしいと思はれるのであります。

七、要するに、今日の我國の財政經濟上の難局を打開致し、進で國運の進暢を圖りまするには、先づ以て國民一般が其の精神を作興し、輕佻奢侈の氣分を一掃し、勤儉貯蓄の美風に就くことが、何よりも急務であると考ふるのであります。固より消費を節約するの要は、敢て吾々の生活に限

る理ではなく、國家及公共團體の財政に就ても同様でありまして、殊に近年に於ける中央財政及地方財政の膨脹は、國民經濟の消長と其の權衡を得ないことが明であります。即ち最大の消費者として、政府自ら其の消費を節するの要がありますから、政府は曩に特別議會に於きまして、行政財政の根本的整理緊縮を斷行することを聲明致しまして、目下此の大方針の下に整理緊縮の具體案を樹て、居る最中でありまして、即ち一般國民も此の政府の方針と相呼應しまして、消費節約勤儉貯蓄の生活に入ることが、刻下の急務であると信するのであります。

八、抑勤儉貯蓄は、各人の生活を安定ならしめ、一家の幸福を増進する基でありますから、個人道徳として極めて尊重すべきものたることは言ふ迄もない所であります。獨り個人道徳として尊重すべき許りでなく、國家公共に及ぼす影響から考へましても、極めて大切な役目を持つて居るものであります。即ち今日國民生活の脅威として、社會問題の禍因を成し又産業發達の根本障害として、社會上並に經濟上の一大難關たる物價問題の如きも、此點から出發するものでなければ、到底根本的の解決を見ることは出来ないのであります。蓋し物價の高い理由は、色々の原因が錯綜して居ることは明かでありませけれども、要するに、購買力が昌であると云ふことが、一

番の根本であることは疑ひない點であります。之は一面から觀れば、通貨の膨脹と云ふことにもなりません。要するに、國民一般が互に消費を節約するならば、物價の下ることは明でありまして、夫れ以上に物價引下策と云ふものはないのでありませう。

次に我國の金利が高くて困ると云ふことは各方面の人々の等しく訴へる苦情でありまして、又實際金利が高い爲めに、産業の振興、輸出の増進も、思ふ様に行かぬ事情もありまして、殊に歐米諸國との競争上非常な不利益を招いて居るのであります。然らば此の金利を安くするには、どうすればよいか、それには先づ我國の資本を殖す外途がない。蓋し金利の高低は、資本の多少に比例するものであるからであります。而して資本と云ふものは、貯蓄の結晶でありますから、我國の資本を殖やすには、國民が一生懸命に働いて其収入の増加を圖り、之と同時に消費を節して貯蓄を爲すの外、方法がないのであります。

九、斯様に考へますと、吾々の勤儉貯蓄と云ふ事柄は一人一家の問題に止まらず、社會問題を解決し、金融問題を解決し、産業問題を解決する鍵であり、従て我國の國運をして益々隆昌ならしむる基であると云ふことが、能く御判りになつたこと、考へます。

之を歐米の先進國の例に就て觀ましても、英國を初め戦前の獨逸、佛蘭西、伊太利等があつた富強を致した手段は、實に多年の國民の貯蓄に在つたのであります。彼の米國の如く世界無比の富源を有つて居る國ですらも、戦時は固より戦後の今日に於ても、勤儉貯蓄の宣傳が昌に行はれて居るのであります。況や我國の如く天然の資源に乏しい國が、是等の先進國と對抗して行くには、益々以て此點に於て國民の奮勵努力を要する次第であります。彼の獨逸國の如きも、戦敗の結果、財政經濟上言語に盡し難い打撃を受け、聯合國に對する賠償として、六百六十億圓と云ふ巨額を支拂はなければならぬ立場に居ります。夫れにも拘はらず獨乙國民は、大に働いて其義務を果し、進で國家の再興を圖ろうと云ふ意氣を示して居るではありませんか。之に比べますと我國は、經濟上の難局に在るとは云へ、之を切り抜けて國運の進展を圖ると云ふことは、決して困難の業ではない、問題は國民の自覺と決心とに存するのであります。

一〇、扱て此の勤儉と云ふことは、各人其の職に精勵すると共に、消費を節約すると云ふことでありますから、敢て説明を要しません、貯蓄の方法と致しましては、郵便貯蓄もあります、銀行預金もあります、公債等の買入もあります、簡易生命保險に加入する方法もあります、其他色々あ

りますから、皆さんに於て、適宜御選擇せられてよろしいのであります。

唯此際特に皆さんに御紹介致したいのは、復興貯蓄債券のことであります、此の債券は貯蓄奨励に關する政府の政策の一端として、特別議會に法案を提出し、其の通過を見た新しい試みであります。債券は五圓又は十圓の小額債券でありまして、僅少の収入を得る人の購入の便を主としたるものであります。發行の實務は、日本勸業銀行をして之に當らせますけれども、之は小額勸業債券の發行に關する同行の多年の經驗を利用する爲めでありまして、其の募集金は残らず大藏省の預金部に持て來させますから、政府の公債に準じて考へても差支ないのであります。此の債券には所得税其他の免税の特典を與へた理由は、此の點に在ります。發行の方法は、大體從來の勸業債券の例に倣ひまして、殊に償還の際には割増金を付けることと致しました。然し徒に割増金の最高額を大きくすると云ふ方法をとらず、寧ろ割増金の當る本数を多くすると云ふ方針を採ることになりました。又從來の勸業債券は、利札付で煩雜でありましたが、今度の債券は、利子据置又は割引方法で發行致しますか、利子は元金償還の際一所に支拂はれること、なりました。

一一、此の債券は、先程申上げました通り、國民の貯蓄を奨励し、零碎の資金を集めて之を資本化することを目的としたものでありますけれども、尙之と同時に此の債券の發行に依て、震災地の經濟的復興と、全國産業の振興と云ふ二大使命の達成に貢献したいと云ふ意味を有つて居るのであります。蓋し震災地の復興に巨額の資金を要することは、既に申述べた通りであります。之と同時に農村其他地方一般に低利の資金を供給して、産業の振興を圖ることも、目下の急務であります。通貨の膨脹を招かずに、是等の資金を調達するには、どうしても債券の發行と云ふ様な方法で、國民の貯蓄を吸収するの外、途がないのであります。従て本債券の募集金は一應大藏省預金部に預りますが、預金部は之を他の一般の資金と離して別途の經理を爲し、大體其の半額は建築資金、商工業資金等の震災地の復興の爲め必要なる目的に之を融通し、半額は地方の公共團體、耕地整理組合、産業組合等に對し産業の振興上必要なる目的に融通することになつて居ります。之は單なる政府の方針ではなく、法律の命令する所であります。而して第一回は、來る九月十五日から全國一齊に賣出されることに決定して居ります。そこで此の債券を買はれる方は、獨り貯蓄の目的を達する許りでなく、其の十圓二十圓は直ちにそれだけ震災地の復興、全國産業の

振興と云ふ二大目的に貢献すること、なる理であります。何卒諸君は、愛國的熱情を以て、政府の計畫を賛助せられんことを望む次第であります。

参
考
附
表

目次

- 一、自大正四年至同十三年本邦外國貿易額
- 二、正貨現在高
- 三、本邦對米爲替
- 四、(イ) 帝都復興關係經費調
(ロ) 震災復興關係經費調
(ハ) 府縣市執行復興事業調
- 五、米國外國貿易額調
- 六、(イ) 日英米銑鐵產額比較表
(ロ) 同 石炭產額比較表
(ハ) 同 石油產額比較表
(ニ) 同 綿絲紡績錘數比較表

(本) 鐵道哩數比較表
 (ハ) 船舶噸數比較表

一、自大正四年至同十三年本邦外國貿易額(殖民地ヲ含ム)

年次	輸出額	輸入額	差引出入(△)超過額
大正四年	七三二、三二八、七七一 _圓	五六二、八九五、九七一 _圓	一六九、四三二、八〇〇 _圓
五年	一、一七二、九五八、四五四	七九三、八五五、四三三	三七九、一〇三、〇二一
六年	一、六六二、二七〇、五七六	一、〇八七、一〇一、一八三	五七五、一六九、三九三
七年	二、〇一二、四七八、九四九	一、七四二、七三四、二九六	二六九、七四五、六五三
計	五、五八〇、〇三六、七五〇	四、一八六、五八六、八八三	一、三九三、四四九、八六七
大正八年	二、一五四、三一八、八三一	二、三三三、四六一、二八二	△ 一七九、一四九、四五一
九年	二、〇〇六、一四五、三六三	二、四九二、三八六、二〇八	△ 四八六、二四〇、八四五
十年	一、二九七、二六三、九一三	一、七三〇、四八七、一三三	△ 四三三、二二三、二二〇
十一年	一、六八五、五〇四、九四八	二、〇二三、〇二七、八七七	△ 三三七、五二二、九二九

大正十二年 上半年	計	大正八年	
		以	降
七、一四三、二二六、〇五五	計	九、四八〇、〇九五、五一七	累年計
一、四九七、三〇六、四六二	計	二、三三六、八六九、四六二	計
八三九、五六三、〇〇〇		八、五七九、三六二、五〇〇	
二、一一九、六八〇、三一四	計	三、六七二、〇四五、三一四	計
一、五五二、三六五、〇〇〇		一二、二五一、四〇七、八一四	
△ 一、四三六、一三六、四四五	計	△ 一、三三五、一七五、八五二	計
△ 六二二、三七三、八五二		△ 二、七七一、三一二、二九七	

二、正貨現在高

年 月	總 額	内	
		政 府	日 本 銀 行
大正三年末	三四一、〇〇〇、〇〇〇圓	四九、〇〇〇、〇〇〇圓	二九二、〇〇〇、〇〇〇圓
七年末	一、五八八、〇〇〇、〇〇〇圓	八五五、〇〇〇、〇〇〇圓	七三三、〇〇〇、〇〇〇圓

三、本邦對米爲替

十年一月廿九日	二、一九〇、〇〇〇、〇〇〇	八七九、〇〇〇、〇〇〇	一、三一、〇〇〇、〇〇〇
十三年七月末	一、六三五、〇〇〇、〇〇〇	五五八、〇〇〇、〇〇〇	一、〇七七、〇〇〇、〇〇〇

平 價

戦後の最も高きとき(大正七年十一月十四日)

四九、^七/_八
五二、^一/_八

最近の相場(大正十三年八月十二日)

四一、^一/_三

平價に比し下落したる割合

一・六七五

最高に比し下落したる割合

二・〇三八

四、(イ) 帝都復興關係經費調

區分	總額	内大正十二年度	十三年度	十四年度以降
帝都復興事業費	三三二,一八〇	六二九,一八〇	八七,六〇七	二四八,一九四
内(東京復興費)	三六〇,六八四	五七五,六〇〇	七七,九五四	三三〇,一七四
横濱復興費	三五,五四〇	五八,二〇〇	九六,五一六	二五,二七六
復興事業費貸付金	六,四七〇,四〇〇	二,三〇六,三五六	二,四八,五二七	四六,七五五
復興事業費補助	一四二,〇八〇,九七	五,二五三,八一七	二九,一五二,一〇五	一三,七四九,九五
復興事業債利子補給	二,六九四,七三〇	三八八,二	一,一四二,四五七	二〇,四三,四六一
總計	五七,四三八,八四九	一三,七九〇,七八五	一三〇,四九〇,〇七九	四九,一五七,九八五

備考

一、復興局の經費は本表の外に於て總額一六、一〇八、七一四圓なり

四、(口) 震災復舊關係經費調

區分	總額	内大正十二年度	十三年度	大正十四年度以降
外務省	一五〇,〇〇〇	〇	一五〇,〇〇〇	〇
内務省	一五〇,四六,四九七	一,〇三三,一〇五	四三〇,一一,二八六	八七,〇七四,二六〇
大藏省	四〇,六九,七七八	〇	五,六四,六〇二	三五,〇〇五,一七七
陸軍省	一三五,八六三,九五五	〇	一一,一〇〇,〇〇〇	二四,七六三,九五五
海軍省	六八,〇〇〇,〇〇〇	〇	四,〇〇〇,〇〇〇	七四,〇〇〇,〇〇〇
司法省	九〇,八一,九五四	〇	二,四六六,九七三	六,六四九,八一
文部省	一〇六,三七三,四〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	一七,〇三三,〇三九	八七,八四九,三六一
農商務省	二七,六九四,一六一	〇	八,八四二,一六一	一八,八七〇,〇〇〇
逓信省	一五七,七三六,六六	〇	四九,七四三,一八八	一〇七,九九三,四四〇
總計	七五,九六三,三七三	二,八二一,〇五一	一四二,九三四,二四八	五四二,二七一,〇七四

備考

一、外に鐵道特別會計の分十三年追加豫算に於て約一億圓あり

四、(八) 府縣市執行復興事業費調

執行者	總額	內	
		國庫補助額	府縣市負擔額
東京府	二〇、三三三、二〇四 ^圓	七、五八三、五〇六 ^圓	一二、七四九、六九八 ^圓
東京市	二七七、四四三、一〇〇	一〇三、二一六、七〇七	一七四、二二六、三九三
神奈川縣	三、三一八、〇七五	七四二、三七一	二、五七五、七〇四
橫濱市	五六、五八九、〇〇〇	一六、五三八、三三三	四〇、〇五〇、六六七
合計	三五七、六八三、三七九	一二八、〇八〇、九一七	二二九、六〇二、四六二

五、米國外貿易額調 單位千弗

年次	輸出額	輸入額	差引出超額
一九一五年	三、五五四、六七一 ^圓	一、七七八、五九七 ^圓	一、七七六、〇七四 ^圓

年次	輸出額	輸入額	合計
一九一六年	五、四八二、六四一	二、三九一、六三五	三、〇九一、〇〇六
一九一七年	六、二三三、五一三	二、九五二、四六八	三、二八一、〇四五
一九一八年	六、一四九、〇八八	三、〇三一、二一三	三、一七、八七五
計	二一、四一九、九一三	一〇、一五三、九一三	一一、二六六、〇〇〇

即チ 二、五三二、〇〇〇^{千圓}
(一弗二圓トシテ)

六、(イ) 日英米銑鐵產額比較表

國名	單位	產額	割合
日本	一九二一年一ヶ月平均	八、〇五四 ^噸	一〇〇
英國	一九二三年一ヶ月平均	六三〇、〇〇〇	七、八二二
日米	一九二三年一ヶ月平均	三、三九二、〇〇〇	四二、一一五

(口) 日英米石炭産額比較表

國名	單位	産額	割合
日本	一九二二年一ヶ月平均	二、〇八四、〇〇〇 <small>輕噸</small>	一〇〇
英國	一九二三年一ヶ月平均	二三、四五〇、〇〇〇	一、一二五
米國	一九二三年一ヶ月平均	四九、二六八、〇〇〇	二、三六八

(ハ) 日米石油産額比較表

國名	單位	産額	割合
日本	一九二二年中	二、〇〇四、〇〇〇 <small>バレル</small>	一〇〇
米國	一九二二年中	五五一、一九七、〇〇〇	二七、五〇四

(ニ) 日英米綿糸紡績錘數比較表

國名	現在	數量	割合
日本	一九二三年五月末	四、〇七九、八五六 <small>本</small>	一〇〇
英國	一九二四年四月末	五七、四二五、八八一	一、四〇七
米國 <small>(ランカシャ地方)</small>	一九二二年七月末	三六、九四五、五五四	九〇五

(ホ) 日英米鐵道哩數比較表

國名	現在	哩數	割合
日本	一九二一年	一〇、〇二八	一〇〇
英國	一九二〇年	三一、八六二	三一七
米國	一九二一年	二六三、六八六	二、六二九

393
707

(一) 日英米船舶噸數比較表

米	英	日	國
國	國	本	名
一九二四年六月	一九二四年六月	一九二四年六月	現
			在
一、八二三、〇〇〇	一八、九一七、〇〇〇	三、六五五、〇〇〇	噸
		<small>總噸</small>	數
			割
三二二	五一七	一〇〇	合

393

707

終